

## ⑭加賀海浜産業道路（手取川架橋区間） 川北町橋～能美市福島町

受賞機関 石川県 南加賀土木総合事務所

**キーワード** 長大橋梁、河川環境の保全、  
ニューマチックケーソン、無人化施工

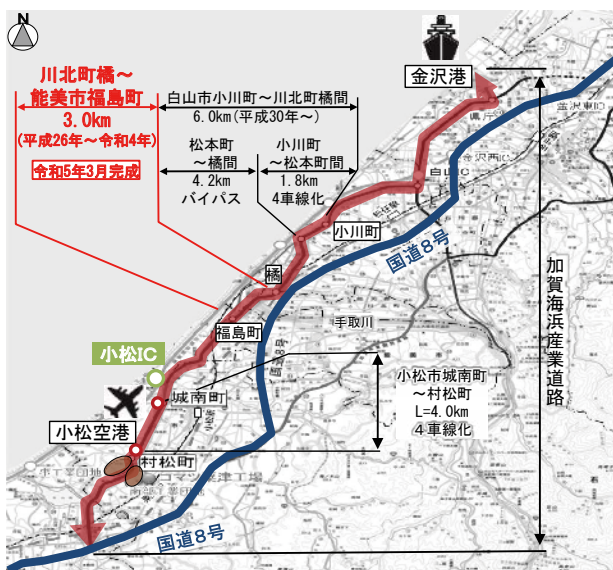
### 全建賞審査委員会の評価ポイント

加賀海浜産業道路（手取川架橋区間）の建設。長大橋梁の整備に当たり、県事業で初となる既往工法を採用し、各種労働災害の防止策導入や大深度における無人化施工などの工夫を行うとともに、工事中のモニタリングや工事後の環境復元など河川環境の保全にも取り組んだ点が評価された。

### 1. はじめに

加賀海浜産業道路は、全国有数のものづくり企業が集積する加賀地域と、全国の重要港湾の中でもトップクラスのコンテナ取扱量を誇る金沢港を結ぶ、海側の重要な幹線道路である。

このうち、手取川に架かる美川大橋では、加賀方面、金沢方面の複数の道路からの交通が集中し、朝夕の通勤時間帯に著しい渋滞が発生していたことから、交通の分散を図るため、平成26年度より新たな橋梁（川北能美大橋）を含む川北町橋から能美市福島町までの3kmについて整備を進め、令和5年3月に開通した。



### 2. 事業の概要

川北能美大橋の建設に当たっては、仮締切堤の設置や大規模な瀬替えにより生物の生息環境に影響を与えることが想定されたことから、事前に重要な生物・群落の分布状況を調査し、工事による影響を把握するとともに、施工時期の調整、工事中のモニタリングや工事後の生息環境の復元など、有識者と対策を検討しながら工事を進めた。

また、橋脚の基礎形式には、本県の事業では初となるニューマチックケーソン基礎を採用した。施工に当たっては、高気圧作業から退函する際の減圧指標をモニター表示する減圧管理システムを採用するなど、ヒューマンエラーによる労働災害の発生を未然に防止するとともに、掘削深度が深くなった段階で遠隔操作による無人化施工を行った。



川北能美大橋（橋長L=537.3m）

### 3. 事業の成果

今回の開通により、交通の分散が図られ、朝夕に発生していた慢性的な渋滞の緩和はもとより、加賀地域と物流拠点である金沢港との相互のアクセスが強化され、物流の効率化が図られた。また、工事中には、地元の高校生や建設従事者を対象に無人化施工（システム管理やロボット技術）に関する講習会を開催し、人材育成を図るなど、本県の建設業の担い手確保に向けた建設業の魅力発信に取り組んだ。

### 4. おわりに

開通した区間の沿線では工場や物流センターが建設され、新たな商業施設の進出が表明されるなど、地域の更なる発展への期待が高まっている。また、加賀海浜産業道路については、現在も4車線化やバイパス整備を進めているところであり、これらの整備により、加賀地域へのものづくり企業の更なる集積による地域活性化が期待される。

賛助会員 朝日エンジニアリング(株)、(株)江口組、  
(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)駒井ハルテック、(株)ピーエス三菱、  
(株)北都鉄工